

Fashion

人事のファッション機能学

ファッションには、自己確認や強化の機能、他者に情報を伝える機能などがある。この機能を利用して、人事が直面する課題に活路を見出すことができないか。パーソナルスタイリストの政近準子氏が語る。

暖かく、フォーマル度も上がるベストに注目

寒い季節になると、電車内や社内と社外の温度差のために着るものに悩む人も多いと思います。最近は発熱素材のインナーが進化しており、薄手でアウターに響かないためよく利用されていますが、簡単に着脱できないのが難点。社内では上着を脱ぐ手もありますが、シャツ1枚になると、フォーマル度は下がります。そこで、取引先を訪問する際だけでなく社内でもきちんとした服装でいたい人におすすめなのがベスト。温度調整がしやすいだけでなく、お腹まわりをカバーするので体型補正の効果もあり、着こなしを覚えれば洗練された印象になります。

ベストというと「ひと昔前」のイメージもありますが、元来、英国では上着、ベスト、パンツのスリーピースが正式でした。最近は伝統的な英国スタイルが流行していることもあり、若い人にも注目されているアイテムです。

スリーピースで上着、ベスト、パンツと同じ生地で揃えるのが正式ですが、



ベストとパンツの間からシャツが見えず、ベルトが隠れるくらいの丈にする。ベストのいちばん下のボタンは外す。

ベストのウエストはジャストサイズで、座った時に違和感のないものを。

ベストとシャツの格は合わせる。たとえば、ボタンドアンのカジュアルなシャツにフォーマルなベストはNG。

別仕立てのベスト(オッドベスト)でもきちんと選べば、ビジネスの場にふさわしい装いができます。色は紺かチャコールグレー。柄が目立つほどカジュアルになります。素材はウールで、生地の表面がフラットなものが一般的です。厚手のウールやニットはカジュアル度が高く、ビジネスでは避けたいほうが無難です。

別仕立てのベストを着こなすコツは、スーツと色を明確に変えること。無理に合わせようとする、微妙な違いが逆に目立ちます。明るめのグレーのスーツと濃いグレーのベスト、濃い紺のスーツに濃いグレーのベストなど色の違いがわかる組み合わせがよいでしょう。柄は、無地がどんなスーツにも合わせやすくおすすめです。

スーツにカーディガンを合わせる人もいますが、もともとカジュアルなアイテムなのでスーツとは相性がよくあ

りません。どうしても三つぞろいのベストが堅苦しいという方はカーディガンではなくシンプルな紺、グレーのニットベストを。また、ジャケットとパンツを自由に組み合わせたジャケパンスタイルなら、カジュアル度が高くなるので、カーディガンと合わせてもよいでしょう。薄手で編み目の細かいものを選ぶとジャケットの下に着てもたつかず、野暮ったい印象になるのを避けられます。

前述の通り、インナーの進化もあって夏物のスーツを冬も着ている人を多く見かけますが、避けましょう。また、今は3シーズン対応のスーツが多く出回っており、便利ですが、秋冬らしさも演出したいもの。ネクタイをウールのもにすると温かみが出ます。

室内外の温度差対策を上手にしながら、冬ならではの季節感のある着こなしを大事にしましょう。

ADVISER



政近準子氏

ファッションレスキュー
代表取締役社長
パーソナルスタイリスト

Masachika Junko_アパレルのデザイナーを経て、2001年個人向けスタイリングを行う「ファッションレスキュー」を創業。顧客は政治家、経営者など1万人を超える。